

重要文化的景観の新選定

《重要文化的景観の新選定》 1件

1 おくうち たなだおよ のうさんそんけいかん 奥内の棚田及び農山村景観【愛媛県北宇和郡松野町】

四国南西部では、四国山地と多くの支脈が東西方向に走るため、西側沿岸部はリアス式海岸である一方、内陸部は無数の山地が広がり平坦地がほとんどない。他方、四万十川はこの地域の中心を源流部として蛇行しながら土佐湾へ向けて東流する。奥内の棚田及び農山村景観は、四万十川の支流広見川上流部の奥内川沿いの山間部に位置する、江戸時代中期以降に形成された棚田を含む4つの集落から成る農山村景観である。古文書等の調査からは、地形条件に沿って、谷部を水田、尾根部を屋敷地、屋敷地周辺を畑として継続して利用されてきたことが確認され、その結果、ヒメアカネ及びアキアカネ等の赤トンボ類を含む貴重な生態系が現在も維持されている。また、山間部ではアラカシ、コジイ、コナラ等の天然生林が広範囲で形成されており、地域本来の希少な山林景観を望むことができる。平成11年に農林水産省の「日本の棚田百選」に認定されてからは全戸加入の保存会が結成され、体験学習会等の棚田保全活動が積極的に進められている。

奥内の棚田及び農山村景観は、四国南西部の四万十川源流域の山間部を開墾した小規模な棚田群から成る文化的景観であり、四国山間部の厳しい地形条件の中で江戸時代以来現在まで継続されてきた生活又は生業を知る上でも重要である。